

《 海水浴場について 》

海水浴場は近年、市民から多くの苦情を寄せられ、みんなが安心して楽しめる場所ではなくなってきています。他人を思いやり、お互いが快適に楽しめる海水浴場を目指し、そして何より鎌倉市民に愛される海水浴場にしていくためにも、海水浴場のあり方を考えていく必要があります。



私は昨夏の海水浴場の実態を直接見てきた中で、特に対策をとっていただきたい、海水浴場から駅までの動線上の警備の充実とごみの収集業務の強化をお願いしました。

また、海水浴場周辺地域自治町内会へのアンケート結果などによれば、特に昨年の由比ガ浜海水浴場は子供を連れていきづらい環境であったという回答が目立っています。子供を安心して連れて行ける環境づくりが必要であり、市が運営または公募で市民が運営する海の家を出店することができないか求めました。

【他市の例】

逗子市では30年以上前に「学校海の家」という教育委員会が運営する海の家があり、そこにはシャワー、更衣室が完備され、小学生、中学生はノートに自分の住所と名前を書けば無料で利用できました。保護者をはじめ市民の方々が海の家に常にいることで子供達を見守り、子供達も海の家に行けば友達に会える環境をつくることで、子供や家族連れが安心して海水浴場に行けるのではないかと考えます。

有料化実施で、減量効果あり

家庭系ごみの有料化を開始して1週間の収集量が示されました。前年の同時期に比べて、約28.5%削減されたとのこと。有料化実施前の3月に駆け込みで、ごみを捨てたことも考えられますが、かなりの減量効果があったことは確かです。

また、指定収集袋以外で出されていた割合は約3.7%であり、昨年有料化を実施した千葉市では、8%であったので、比較するとほとんどの人がきちんと指定収集袋で捨てていたこととなります。

今後も効果や数値については、ご報告していきます。

住所：鎌倉市腰越 3-23-7 連絡先：0467-32-5889

ホームページ：<http://www.hinata-kamakura.com/>

ブログ：<http://ameblo.jp/hinata-shingo/> フェイスブック：日向慎吾

メール：hinata.shingo@gmail.com ツイッター：@HinataShingo



討議資料



ひなた新聞 13号



鎌倉市議会議員



ひなた慎吾

活動レポート



2013年 29歳で鎌倉市議会議員初当選。
議会運営委員会委員・観光厚生常任委員会委員。現在も腰越在住、31歳。

●平成27年度予算可決

一般会計が613億6400万円(前年度1.1%増)となりました。また、国民健康保険や介護保険、下水道などの特別会計は498億2440万円(前年度7.8%増)となりました。我々「鎌夢会」は、小・中学校の教室への冷房設備に対する予算の実現や中学校給食の実施に向けた業者選考、ごみ減量化対策の一環としての家庭系ごみ有料化の実施、地区別危険マップの作成を始めとする防災対策、海水浴場の運営に対する問題解決に具体的な予算措置をした事などを特に評価し、賛成いたしました。

●代表質問

今年度、私は会派を代表して代表質問を行い、また、予算特別委員会の委員として、新年度予算議案を審議いたしました。

クリーン&ガーデニング大作戦



毎月第3土曜日の7時30分～8時30分(腰越駅集合)

腰越駅周辺・腰越海岸の清掃と雑草の手入れを行います。終了後、意見交換会も行っております。お時間の許す限り、お気軽にご参加ください。

☆スケジュール☆

第26回：5月16日

第27回：6月20日

第28回：7月18日

第29回：8月15日

：

●代表質問



新年度予算審査に当たっては、様々な問題の解決に対して、オール鎌倉で取り組んでいく施策を講じているか否かの視点を中心に検証を行いました。意見・要望等を含めて、以下抜粋してご報告させていただきます。

《 ホームページは利用者の目で 》

鎌倉市が公開しているページは約 8,000 ページあり、様々な市政情報を発信しています。昨年のユーザーの延べ訪問回数は一日平均 8,444 ということで、多くの人がホームページに訪問しております。



しかし、訪問数が多くても実際に知りたい情報が載っているか、またその情報が分かりやすい場所に載っているか。という「利用者の目」でホームページを見ることが大事です。情報を積極的に公開してだけでなく、受信してもらえらる形で出すことが大切であり、例えば、ツイッターやLINEは、利用者が必要とする情報を選んで

受信するのに効果的な方法なので、さらに活用していただきたいです。

QRコードを読み取るか、「鎌倉市ツイッター」「鎌倉市LINE」で検索



《 「治療」から「予防」へ 》

平成27年度の高齢化率は30.2%に推移すると算出され年々伸びています。同時に扶助費の伸び率も近年急激であり、このままでは財政運営が立ちいかなくなりかねません。そこで「治療」から「予防」への意識改革が重要であり、運動の普及啓発や健診を受けやすい環境づくりが必要です。

また、認知症サポーターの養成拡大や在宅介護支援の充実、住み慣れた自宅や地域で安心して介護を受ける環境を整えると同時に、介護施設を建設することへの財政負担の抑制につながります。



《 マイナンバー制度(※)に向けて 》

窓口における添付書類の軽減やサービスの簡素化や効率化など、効果が期待されていますが、市全体のサービスを向上させるには普及率が高くなければいけません。個人番号カードの空き領域の活用や自治体の独自利用を積極的に導入するように求めました。空き領域を活用することで「共通診察券」「施設利用カード」「図書カード」などを個人番号カード1枚にまとめることができます。

(※)マイナンバー制度：住民票を有する全ての方に1人1つの番号を付して、社会保障、税、災害対策の分野で効率的に情報を管理し、複数の機関に存在する個人の情報が同一人の情報であることを確認するために活用されるもの。平成27年10月に番号が通知され、平成28年1月から利用開始。

診察券 図書カード
施設利用カード
印鑑登録証



《 空き家を地域の公園に 》

平成25年の総務省の調査によると空き家数は全国で820万戸、空き家率は、13.5%と過去最高の結果となりました。空き家問題は深刻化しており、他の自治体では、地域防災や公園に活用している例もあり、大いに参考にして、対策を進めていくように求めました。



【活用例】

- ・文京区：空き家の解体費用を区が最大で200万円まで助成し、解体後の跡地を区が所有者から10年間無償で借り受け、広場や消火器具置き場などの公共目的のために使用する事業が行われている。
- ・世田谷区：空き家を地域資源と捉え、地域貢献活用企画を募集し、モデル候補として選ばれると最大200万円の助成を受けられる。助成金は、空き家の改修工事費、備品購入費等に使うことができる。

《 子育て支援の充実を 》

未来を担う若い世代の応援として子育て支援に力をいれるべきです。待機児童については、平成22年度から平成26年度までに保育所定員数を434人増やしたものの、依然解消されていません。こども園の移行幼稚園を募ったり、家庭的保育委託の増員など、鎌倉定住の促進につながる施策を求めました。

